

認定NPO法人 日本紛争予防センター 2012年11月24日発行／No.24

JCCP NEWS

Vol.08 Iss.03

JCCP



ケニア：マザレ・スラムの小学校

CONTENTS

P.2-3 … 特集『ケニア 一首都ナイロビ、マザレ・スラムでのコミュニティ平和構築事業一』

P.4 … 南スーダン： ストリートチルドレンと向き合う

P.5 … ソマリア：「水と衛生分野の調査とモニタリング評価」プロジェクトを開始／

干ばつ被害者・女性被害者への支援 第2フェーズがスタート／若者の社会復帰プロジェクト(Youth for Change)を開始

P.6 … ケニア： IPSTC:PKO訓練センターでの災害管理トレーニング

トピックス： 瀬谷ルミ子事務局長、エイボン女性年度賞受賞／ご支援へのお礼

P.7 … 新任スタッフからのご挨拶／ご支援のお願い(書き損じハガキ募集中、マンスリーサポーターのご案内)

P.8 … JCCPの事業一覧／メディア掲載・講演／編集後記



特集：ケニア

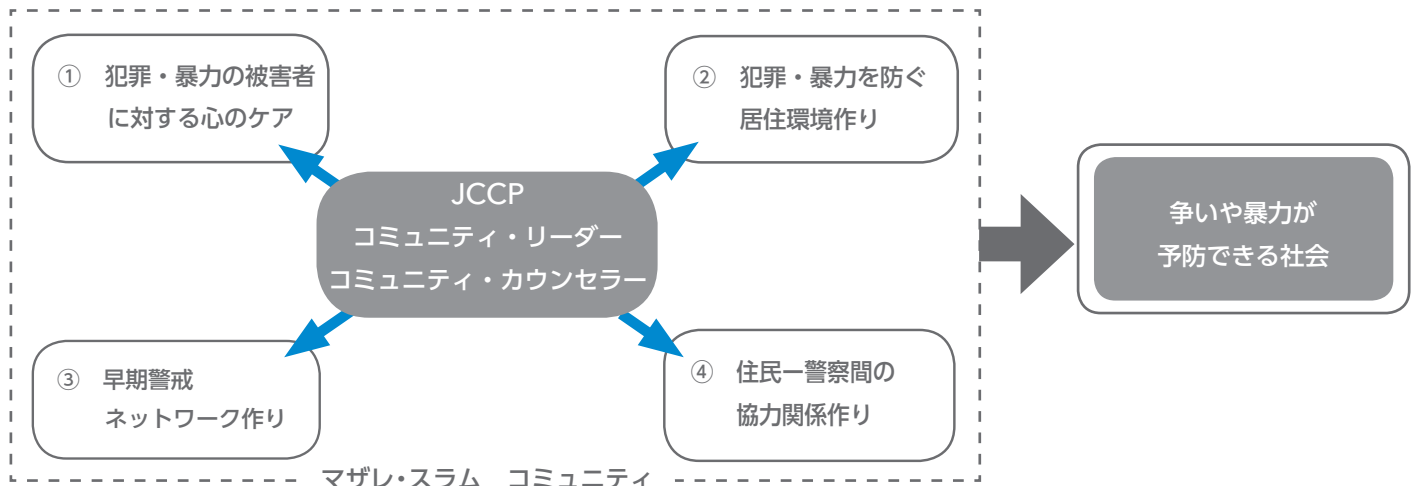
首都ナイロビ、マザレ・スラムでのコミュニティ平和構築事業

2007 年末に行われたケニア大統領選挙では、その結果をめぐる異なる民族に出自をもつ大統領候補が対立したことで、大規模な民族間の暴動が発生し、判明しているだけでも 3 ヶ月間で死者 1,133 名、国内避難民約 30 万人を出す大惨事となりました。女性や子どもに対する性的暴力、暴動の被害者の不安のはけ口としての家庭内暴力も多く報告されました。

ナイロビ第二の規模のスラムであるマザレ・スラムには、異なる民族に出自をもつ約 20 万人の人々がひしめき合って暮らしています。そのマザレ・スラムでも激しい暴動が発生しました。暴動が落ち着いた後も、マザレ・スラムでは争い合った民族同士が隣り合って生活しており、加害者と被害者の間の謝罪や和解も部分的にしか達成されていません。また、不衛生な生活環境や高い失業率などコミュニティが抱える課題は多く、2013 年 3 月に予定されている大統領選挙を目前に、住民の多くが暴動再発の危険性について不安を抱えています。

JCCP は、2012 年 3 月より争いや暴力が発生しにくい社会を築くためにコミュニティ平和構築事業を開始しました。開始から約半年が過ぎた現在までの成果をお伝えします。

<コミュニティ平和構築事業のしくみ>



いま、スラムで最も子どもが安らげる場 ―犯罪・暴力の被害者に対する心のケア―

この事業では、スラム出身の若者たちを、啓発活動や心のケアを行うコミュニティ・カウンセラーとして育成し、暴動の加害者と被害者の和解を住民同士でサポートできる体制作りを行なっています。

マザレ・スラムの住民からは「子どもは何も知らないまま、両親から強要

されて麻薬運搬の仕事をさせられている」「女性や子どもは、自分が被害者であるという意識すら薄い」といった声があがっていました。そこで、人権、性的搾取、薬物濫用、家庭内暴力などに関する啓発活動とカウンセリングを行っています。



マザレ・スラムの子どもたち

8月までに616名の女性と子どもが心のケア・カウンセリングに継続的に参加しました。カウンセラー養成のための研修には48名が参加し、お互いの成果や教訓を話し合いながら、カウンセリング技術向上を図っています。

また、子どもたちを含む住民へのカウンセリングを行う施設「セラピー・ルーム」を4箇所を設置しました。防犯設備や子ども用の遊び道具、カウンセリング資材が完備された施設において、子どもたちが家の外で安心して相談できる場所を提供します。これによ

り、家庭内暴力を含む犯罪リスクの早期発見と対応を目指しています。今年8月に麻薬中毒者を支援するケニア政府機関 National Campaign Against Drug Abuse Authority (NACADA) の職員の訪問を受けたときには、「ここは、いまマザレで最も子どもが心安らげる場だ」とのコメントをいただきました。

プライバシーに配慮されたセラピー・ルーム。子どもたちが心を開きやすいよう、おもちゃも用意されている。毎週金曜日、コミュニティ・カウンセラーたちはここで互いの課題を持ち寄り話し合う。



「Amani Ibambe Uchafu Tusare 《平和を広げ、汚いものをなくそう》」 —犯罪・暴力を防ぐ環境作り—

民族間の対立のみならず、劣悪な生活環境が犯罪の温床となることから、JCCPは住民に清潔で安全な居住環境を整備すること、異なる民族間のコミュニケーションの機会を増やすことを目的とした共同清掃活動を支援しています。

6月20日、21日に実施された共同清掃活動には、コミュニティ・リーダー24名を含む120名のボランティアが参加し、朝8時から、路上のゴミ拾い、下水道の清掃、リサイクルゴミの分別などの活動を行いました。



共同清掃活動を通して、異なる民族間のコミュニケーション向上が図られる。

清掃活動中、7つの民族から集まった参加者たちが、自発的に作ったスローガン「Amani Ibambe Uchafu Tusare」（スワヒリ語で「平和を広げ、汚いものをなくそう」）を口にしながらともに歩く光景がみられました。これまでに行われた共同清掃活動には、当初の予定より300名も上回る1,477名が参加しており、各コミュニティ・リーダーからはすでにこの事業をもっと続けてほしいとの要望を受けています。

このようなJCCPによる事業以外にも、マザレ・スラムでは青少年に対する就労支援も行われています。マザレ・スラムは、青少年による恐喝やすりなど犯罪が目立つ地域でもあり、その背景には彼らが失業により時間を持て余しているという現状があります。そこで、スラムの長老らを中心に、青少年に就労機会を与えるための「Water For Sale」という小規模ビジネスが立ち上がりました。

現在約100名の青少年が、水の販売や運搬に従事するようになり、軽犯罪に手を染めるようなことがなくなりました。彼らは「Water For Sale」で仕事をしながら、JCCPの共同清掃活動にも毎回参加し、犯罪防止を呼びかけており、いまではマザレ・スラム内のコミュニティ平和構築の担い手へと成長しています。



青少年に対する就労支援「Water For Sale」の一環として、洗車の仕事をする青年。

今後の課題：早期警戒ネットワーク・住民警察間の協力関係作り

今後は、コミュニティ・リーダーを中心に住民が自身で問題を解決し、住民間での争いや対立が拡大するのを防ぐことができる「早期警戒ネットワーク」の構築に力を入れていきます。また同時に、住民警察間のコミュニティ協力体制作り

に努めていく予定です。警察への不信感をなくし、住民と警察が協力し合う体制を整えることによって、警察へのアクセス、そして治安の改善を目指します。

今後も、JCCPはケニアにおいて平和な社会を実現するために、異なる民族間

の対立緩和と相互理解の促進を目指し、今後もマザレ・スラムでの平和構築を支援していきます。

※この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、外務省（日本NGO連携無償資金協力）からの助成により実施しています。

ストリートチルドレンをもつ家庭の聞き取り調査にて回答してくれた家族



SOUTH SUDAN
南スーダン

ストリートチルドレンへの職業訓練の様子をYouTube動画でご覧いただけます。
<http://www.youtube.com/user/JCCPchannel>

ストリートチルドレンへの職業訓練の様子をYouTube動画でご覧いただけます。
<http://www.youtube.com/user/JCCPchannel>

ストリートチルドレンと向きあう

2010年より南スーダンの首都ジュバで実施しているストリートチルドレン支援の最新の活動をご報告します。

ストリートチルドレンの保護者との対話

「自宅があって保護者もいるけれど路上で暮らしている」－2012年にデンマークの国際NGOがジュバの100名以上のストリートチルドレンを対象に聞き取り調査を行ったところ、半数以上がそのように回答しました。

「いるのですか？」それこそが、NGO職員やソーシャルワーカーとして日々ストリートチルドレンと接している調査員らがもっとも知りたいことでした。しかし、子どもの衣食住や教育にお金をかけたくてもできず、保護者としての悲しみや無

協力的な人が多かったことは嬉しかった。このような深い調査はこれまででしたがなく、私たちが支援している相手のことを考え直すきっかけとなった」と話しています。

両親の失業、家庭内暴力、父親のアル

JCCP は、こうした子どもたちの家庭背景に迫るため、ジュバ市内の NGO の職員、南スーダン中央エクアトリア州社会開発省の職員と共同で、ストリートチルドレンの保護者 33 名への聞き取りを行いました。

力感に打ちのめされている人々に対して、そのようなデリケートな質問をぶつけることができるはずはありません。調査員らは言葉を選びながら話をつづけ、ひとつの家庭へのインタビューは 1 時間から 3 時間に及びました。調査員の一人は、「デリ

コール中毒、友人からの誘惑など子どもたちを路上に駆り立てる理由は多様かつ複合的です。ソーシャルワーカーらは、調査で浮き彫りになった子供たちの問題に向き合い、今後取り組むべき課題を共有しています。

「なぜ、あなたの子どもは路上で生活し　ケートな内容のインタビューだったのに、

子どもの話をきく

紛争によって心に傷を負ったり、家庭に深刻な問題を抱えたり、薬物やアルコールを常習したりしているストリートチルドレンに向き合い、話を聴くことは容易ではありません。JCCPは2012年9月末、ケニアに本部を置くカウンセラー養成学校から心理社会ケアの専門家を招き、州社会開発省や現地NGOの職員を対象に、カウンセリングの基本技術の研修を実施しました。参加者らは「カウンセリングとアドバイスの違い」、「話の聴き方」、「聴いたことをどう記録するか」、「カウンセラーとしての望ましい態度」などを5日間にわたって学び、話を聴く際に効果的な椅子の向きや距離を実際に試したり、自分や他人の意識を明確にする心理学の手法を実践したりしました。

ストリートチルドレンを生み出す社会状況を変えることも、子どもたちを社会に復帰させることも、決して容易ではありません。それでも、JCCPの南スーダン人のソーシャルワーカーたちは、今日も、一人ひとりの子どもたちと向き合っています。砂漠に井戸を掘るような仕事かもしれませんが、同じ問題に取り組む者同士が、政府機関やNGOといった個別の組織を超えて課題を共有し、今後、どのような支援ができるか、ともにアイデアを出しあえるような体制をこれからも築いていきます。

カウンセリングの「聴く技術」を学ぶ。

カウンセリング研修2日目に作成した受講生のライフツリー。心理学的手法を用いて自己認識を表現する。

*この事業は、JCCP会員や寄付者の皆様からのご支援と、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託、および公益財団法人日本国際協力財団（JICF）からの助成により実施しています。



カウンセリングの
「聴く技術」を学ぶ。

「水と衛生分野の調査とモニタリング評価」プロジェクトを開始

JCCP は 2012 年 6 月 より、日本政府も出資している、国際移住機関 (International Organization for Migration: IOM) による「ソマリアの国内避難民の衛生状態向上のためのプロジェクト」を一部請け負っています。JCCP の役割は、井戸やトイレを建設して直接的に避難民の方々を支援することではなく、このプロジェクトにかかわる複数のソマリアの現地 NGO の調整と能力強化です。具体的には、プロジェクトの開始前と終了後の水質調査やモニタリング評価などを JCCP が現地 NGO と共

同で実施するなかで、プロジェクトの前後のデータを比較することの重要性、プロジェクトの成果を客観的に測定する方法について学んでもらい、次回はソマリアの NGO が主体となって自国の避難民に対して効果的なプロジェクトを計画し、実施できるようになってもらうことを目指しています。

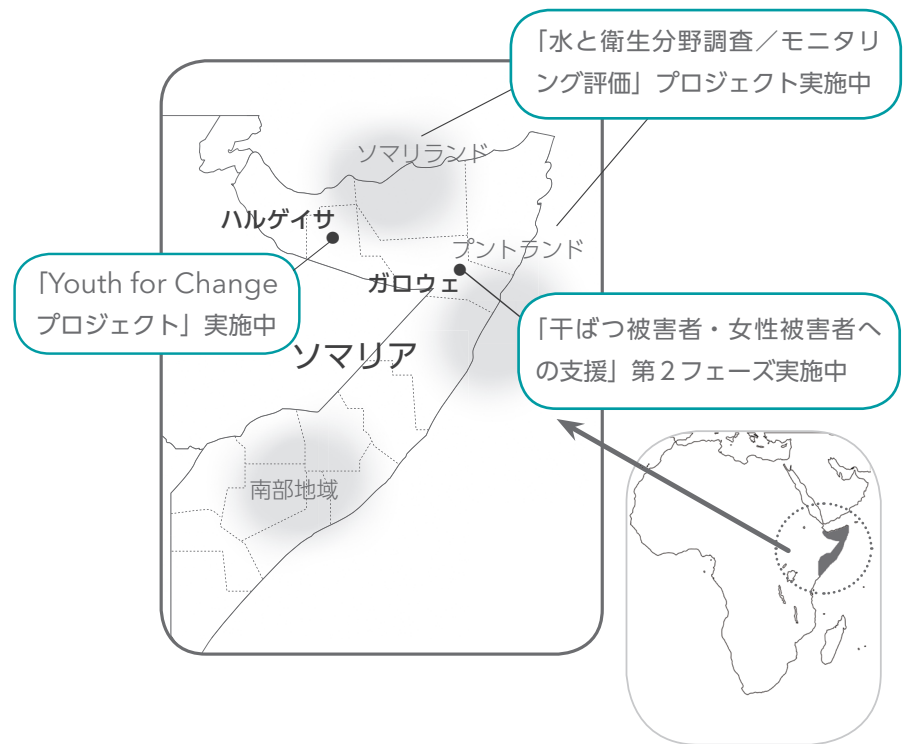


※この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、国際移住機関 (IOM) からの委託により実施しています。

2012年7月、避難民キャンプ住民の衛生に対する意識調査を行うため、インタビューの進め方、相手の回答の記録方法、立ち居振る舞いなどを学ぶソマリア人調査員。

干ばつ被害者・女性被害者への支援 第2フェーズがスタート

2012 年 2 月から 7 月にかけてソマリア北部のプントランドにおいて行ってきた干ばつ被害者と女性被害者への支援事業は、8 月に「第 2 フェーズ」として、プントランドの首都ガロウェにおいて再スタートしました。避難民キャンプの女性は特に性差別的暴力の被害に遭いやすいと言われていいます。ソマリア社会では、身体や心に深い傷を負った人々が家族にすら相談することができず、事件が抹殺されてしまう例が後を絶ちません。JCCP はそうした暴力を防止し、彼女たちを救済するための仕組みづくりを現地政府と他の NGO と協力して支援し、被害者たちがそうした現地の仕組みを利用し、医療的措置やカウンセリングといった適切な支援を受け、十分なプライバシーを守られつつ尊厳を回復していけるようなサポートを目指しています。



※この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、ジャパン・プラットフォーム (JPF) からの助成により実施しています。

若者の社会復帰プロジェクト (Youth for Change) を開始

JCCP は 2012 年 9 月より、ソマリアで新たな事業を開始しました。「紛争・海賊・武装勢力の影響を受けた若者の更生・社会再統合プロジェクト (英語名 Youth for Change)」で、国連開発計画 (UNDP)、国連児童基金 (UNICEF) 及び国際労働機関 (ILO) との共同で行っています。この事業は、昨年実施された「民兵・犯罪予備軍の若者の社会復帰

プロジェクト (Youth at Risk)」から引き継がれる第 2 フェーズとなり、犯罪組織に取り込まれる危険のある若者に対し、除隊や職業訓練を通して更生のための支援をしていきます。JCCP は、この事業の中で、1) 犯罪や治安情報の管理をできるよう、内務省・警察などソマリア政府の監視能力強化、2) 地域ごとの政策立案者・コミュニティリーダーに対する平和

構築研修カリキュラム作成、を主に担当します。現在プロジェクト・マネージャーの中川禎人、プロジェクト・コーディネーターの栗原真由花がソマリア北部のソマリランド首都ハルゲイサに駐在し、事業を実施しています。

※この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、国連開発計画 (UNDP) からの委託により実施しています。

IPSTC：PKO訓練センターでの災害管理トレーニング

JCCP が 2010 年から支援を続けているナイロビの IPSTC（国際平和支援訓練センター）では、7 月 30 - 8 月 10 日に、東アフリカの軍人及び関係省庁を対象に、災害管理に関する研修が行われました。東アフリカ地域では、干ばつや洪水など自然災害が深刻な問題であるにも関わらず、政府・軍・警察の協力的体制や対応の仕組みが整っておらず、数年前から災害対策に実績と経験を有する日本による研修の要望が寄せられています。8 月の研修では、JCCP がケニア・ソマリア代表の石井由希子が、2011 年

の東日本大震災を例に挙げ、被災者の中でも高齢者・障がい者・子どもを含めた災害弱者についての説明と求められる支援について講義しました。また、防衛省から石橋克伸一等陸佐を特別講師として招き、ハイチ及びインドネシアの震災直後に支援活動を行った陸上自衛隊の経験、災害直後の情報収集や分析の技術、各国軍や緊急支援団体との連携や調整方法について講義をしていただきました。

*この事業は、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、国連開発計画 (UNDP) からの委託により実施しています。



防衛省・石橋克伸一等陸佐による講義(8月3日)。自衛隊の海外における災害管理支援について、ハイチとインドネシアの経験を講義いただいた。受講者はケニア人25名(うち女性3名)。主に陸・海・空軍関係者、関連省庁職員、赤十字職員などが受講した。

トピックス

瀬谷ルミ子事務局長、エイボン女性年度賞受賞

この度、瀬谷事務局長が 2012 年度エイボン女性年度賞を受賞致しました。本賞は、「活動の分野を問わず、社会的にめざましい活躍をし、立派な功績を納め、女性の新しい可能性を示唆する先駆的活動をしている女性」に授与されています。エイボン女性年度賞は、1979 年から開始され、今年で 33 回目を迎えます。年に 3 名に賞が与えられ、そのうち 1 名に大賞が授与されます。表彰式と大賞受賞者の発表は来年 1 月です。このたび受賞の機会と JCCP の活動へのご支援を頂いたことに感謝すると同時に、今後も現場の活動を進めていきます。

◆エイボン女性年度賞公式ホームページ：

<http://www.avon.co.jp/about/womanprize/tabid/93/Default.aspx>

◆クロワッサン公式ホームページ内紹介ページ：

<http://magazineworld.jp/croissant/special/avon/836/index.html>

JCCP公式Twitterのご案内

10 月の半ばより、JCCP 公式 Twitter アカウントが出来ました。職員による講演や講義、メディア出演の情報、事業報告から、東京事務局の日常まで、幅広くお伝えしてきます。アカウントをお持ちの方は、是非ご利用下さい。

◆詳しくはこちらの公式アカウントページへ

https://twitter.com/NGO_JCCP

@NGO_JCCP

検索

ご支援のお礼

9 月に MS&AD ホールディングス・MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様より、10 万円のご寄付をいただきました。JCCP の現地支援活動に大切にに使わせて頂きます。貴重なご支援ありがとうございます。

いつも温かいご支援有り難うございます。この紙面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

新任スタッフからのご挨拶

在南スーダン代表事務所
プログラム・マネージャー
石原 聡美 (いしはら さとみ)

8月に在南スーダン代表事務所のプログラム・マネージャーとして着任しました。南スーダンは昨年独立したばかりの新しい国ですが、私にとっては2度目の駐在となります。JCCPの一員として、新しい国を作る南スーダンの人々のお手伝いをしていきたいと思っています。

略歴:

大学では国際関係学を専攻。大学卒業後、パレスチナの現地NGOにて、ボランティアとして活動。その後、日本のNGOの現地駐在員として、各地で開発支援事業や緊急支援事業に携わる。これまでパレスチナに7年間、カンボジアに半年間、南スーダンに2年間駐在。

在ケニア・ソマリア代表事務所
プログラム・コーディネーター
武繁 政昭 (たけしげ まさあき)

9月に東京本部事業担当として着任し、10月末に在ケニア・ソマリア代表事務所に赴任することになりました。世界が激動する中、創造的な市民社会と平和な世界の構築に向けて、日々頑張っていきたいと思っています。何卒、どうぞよろしくお願い致します。

略歴:

これまで主に民間会社や日本のNGOで経理・労務を担当。前職のNGOにおいて外務省主催長期派遣プログラムによる英国及び南アフリカのActionAidでの研修に参加。帰国後は主に会計面でのアカウンタビリティ構築に従事。

東京本部
広報・マーケティング
大森 真紀 (おおもり まき)

11月に東京本部の広報・マーケティング担当として着任しました。JCCPの活動をひとりでも多くの方々に御支援していただけるよう、広報・マーケティング面からのサポートを頑張っていきたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

略歴:

民間会社で、WebディレクションやWebプロモーション、マーケティングPRの企画提案や、モバイルを活用したコンテンツ・事業開発に従事。また、週末等を利用して、市民ファンドや教育系NPO団体の、広報・事務局業務をプロボノ活動で支援。

ご支援のお願い

未使用・書き損じハガキ募集キャンペーン実施中

お手元には書き損じハガキや未使用のハガキ・切手はございませんか? JCCPでは、年賀状や暑中見舞い等の書き損じハガキを切手や現金に交換し、紛争地の人々への支援に役立てています。皆様のご協力が大きな力になります。



未使用・書き損じハガキ送付先

〒112-0014
東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F
日本紛争予防センター 書き損じハガキ係

◎いただいたハガキによるご支援のご報告を送らせて頂きますので、差し支えなければお名前、ご連絡先、当キャンペーンを知ったきっかけを添えてお送りください。
◎書き損じハガキに記載されている個人情報は厳重に管理し、JCCPおよび第三者が使用することはありません。個人情報保護方針につきましては、当センターホームページ (www.jccp.gr.jp/privacypolicy.html) よりご覧いただけます。

ハガキ 1枚 で...

啓発活動参加中の南スーダンのストリートチルドレンが、**給食を一食分**食ふことができます。

詳しくはこちら!

書き損じハガキキャンペーン
(2013年3月31日まで)
www.jccp.gr.jp/support/hagaki.html



マンスリーサポーターのご案内

マンスリーサポーターは、月々一定金額のご寄付で継続して紛争地の支援をしていただく方法です。

例えば1日あたり100円(月3,000円)のご支援を一ヶ月間していただくと...

犯罪・暴力の被害に遭ったケニアのスラムの子どもや女性が8名が、**心のケア**を受けることができます。 *当事業については本誌p.2-3をご参照下さい。

マンスリーサポーターのお申込み

オンラインでのお申し込みが可能です。
JCCPホームページより手続きください。
www.jccp.gr.jp/support/monthlysupporter.html



会員案内

JCCPは、紛争予防・平和構築活動の重要性に賛同し、JCCPの活動に参加いただける会員を随時募集しております。

◆入会方法

入会申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。入会申込書はJCCPのホームページ(トップページ→支援する→会員になる)からダウンロードいただけます。

寄付のお願い

JCCPは、海外事業・国内事業を支援していただける方からの寄付金を随時受け付けております。

★郵便振替で寄付をする

郵便振替口座: 00100-8-425569

加入者名:

特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
トクヒ ニホンフンソウヨボウセンター

★銀行口座から寄付をする

三菱東京UFJ銀行(普) 1111380

名義人:

特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
トクヒ ニホンフンソウヨボウセンター

★オンラインで寄付をする

JCCPのHP (<http://www.jccp.gr.jp>) のトップページから、「支援する」のページを選択していただき、オンラインで募金いただけます。

詳しくはお電話かメールでお問い合わせいただくか、JCCPのホームページをご覧ください。 www.jccp.gr.jp

JCCPの事業一覧 (2012年11月現在)

※国ごとに記載しています。

事業名 : 国際平和支援研修センター (IPSTC) への平和支援研修及び組織強化事業
事業地 : ケニア
期 間 : 2012年1月～継続中(第2フェーズ)
助 成 : 国連開発計画(UNDP)

事業名 : ソマリランド・プントランドにおける水と衛生分野の調査とモニタリング評価
事業地 : ソマリア
期 間 : 2012年7月～継続中
助 成 : 国際移住機関(IOM)

事業名 : 選挙暴動後のスラムにおけるコミュニティ平和構築・治安改善プロジェクト
事業地 : ケニア
期 間 : 2012年3月～継続中
助 成 : 外務省・日本NGO連携無償資金協力

事業名 : 南スーダン・ジュバ市内におけるストリートチルドレンを支援する現地
NGO及び現地政府の能力強化及びネットワーク強化事業
事業地 : 南スーダン
期 間 : 2011年12月～継続中
助 成 : 独立行政法人 国際協力機構(JICA)

事業名 : 民兵・犯罪予備軍の若者の社会復帰プロジェクト(Youth for Change)
事業地 : ソマリア
期 間 : 2011年8月～継続中
助 成 : 国連開発計画(UNDP)

事業名 : ストリートチルドレンに対するシェルター支援と心理ケア・啓発事業
事業地 : 南スーダン
期 間 : 2012年4月～継続中
助 成 : 公益財団法人日本国際協力財団(JICF)

事業名 : ソマリア共和国プントランドにおける干ばつ被災者・国内避難民への
生活支援および啓発・心理的社会的サポート事業
事業地 : ソマリア
期 間 : 2012年2月～継続中(2012年8月より第2フェーズ)
助 成 : 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

メディア掲載・講演 (2012年9～11月) ※今後の予定は随時JCCPホームページにてお知らせします

発売日	掲載メディア	紹介コーナー／記事タイトル	開催日	主催／イベント	講演テーマ／イベント名
9月10日	「クロワッサン」	「2012年度エイボン女性年度賞受賞発表 第2回」	9月5日	伊勢崎市立四ツ葉学園 中等教育学校	「世界で活躍する日本人になれ」
10月1日	「MOKU」	特集「『私』という病」	9月14日	北いわて未来ラボ	「今から考える未来の選び方: 紛争解決という仕事」
10月29日	「日経ビジネス」	巻頭特集「次代を創る100人」	9月19日	防衛研究所	「紛争地の平和構築」
10月24日	「ゲーテ」	「土壇場に強い男」	10月12日	群馬県立高崎東高等学校	「紛争地に生きる選択肢を: 平和をつくる仕事とは」
※連載終了のご報告※			10月20日	楽天株式会社	「How to resolve Conflict」
5～8月	「連合」	連載「働くこと」が明日への希望 「紛争地の人々に生きる選択肢を①～④」	10月28日	学生団体S.A.L	「今までやってきた仕事のなかで、一番やりがいがあった、楽しい」
			11月3日	兵庫県立国際高等学校	生徒・教員・保護者およそ700名を対象とした講演
			11月7日	経済同友会	「人生の選択肢を切り開く ～紛争地と私たちがつながってできること～」
			11月19日	明治学院大学*	「紛争予防・平和構築という仕事」

※講演者・出演者は瀬谷ルミ子事務局長。(※は安富淳シニア・プログラム・オフィサー)

編集後記

皆さんは「スラム」ときいてどのような場所を思い浮かべられますか？今号で特集したナイロビのマザレ・スラムでは、深刻な犯罪や暴力が多発しています。しかし一方で、スラムはとても明るく活気に満ちた生活の場です。野菜、果物、衣類、ゴム草履などを並べる露店、大音響でポップミュージックを流すDVD屋台などが所狭しと並ぶ路地で、女性たちは煮炊きし、洗濯し、談笑し、若者はインターネット・カフェでゲームに興じています。私が前職で住み込み調査をさせていただいていたフィリピン・マニラのスラムと変わらない懐かしい空気のおかげで「支援する側」の私たちの小さな思いなど吹き飛ばすようなスラムの爆発的な活力を前にすると、支援どころか「私たちが一緒に活動させていただいてよろしいですか」とお願いしたくなるような気持ちになります。11月15日、出張中のナイロビ・マザレスラムから。(木場)



認定NPO法人 日本紛争予防センター
〒112-0014 東京都文京区関口1-35-20 藤田ビル3F
TEL: 03-5155-2142 FAX: 03-5155-2143
E-mail: contact@jccp.gr.jp
URL: www.jccp.gr.jp

発行日 2012年11月24日
発行人 堂之脇光朗
編集人 瀬谷ルミ子
Volume 8 Issue 3

顧問 近衛忠輝 日本赤十字社社長
明石康 元国連事務次長
理事長 堂之脇光朗 元外務省大使
理事 小川和久 (特活)国際変動研究所理事長
植村高雄 (特活)CULLカリタスカウンセリング学会会長
瀬谷ルミ子 (特活)日本紛争予防センター事務局長
永井恒男 (株)野村総合研究所コンサルティング事業本部
中土井僚 オーセンティックワークス(株)代表取締役
宮下幸子 ユイット(株)代表取締役
監事 柴田秀孝 (株)エムアンドアール顧問